

## 会 議 録

会 議 名 称	第 1 回 登米市総合計画審議会
開 催 日 時	平成 27 年 8 月 31 日 (月) 午後 1 時 30 分開会 午後 3 時 50 分閉会
開 催 場 所	登米市役所迫庁舎 2 階 大会議室
議長 (会長) の氏名	公立学校法人宮城大学 教授 徳永幸之
出席者 (委員) の氏名	<p>公立大学法人宮城大学 教授 徳永幸之【会長】  登米市景観形成会議 会長 西條多美子【副会長】  登米市子ども・子育て会議 鹿野良子  登米市都市計画審議会 会長 遊佐正克  登米市男女共同参画審議会 尾形重雄  宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所 所長 加藤慶太  登米市中学校長会 及川長五郎  特定非営利活動法人登米市体育協会 会長 佐々木猛  登米市文化協会 理事長 鈴木敬一  一般社団法人登米市医師会 石井宗彦  社会福祉法人登米市社会福祉協議会 事務局長 菅原晴男  登米市民生委員児童委員協議会 理事 關嘉基  登米市食生活改善推進員協議会 副会長 千葉みどり  一般社団法人登米市観光物産協会 会長 阿部泰彦  登米地域商工会連絡協議会 幹事 今野秀俊  みやぎ登米農業協同組合 常務理事 須藤正美  登米市環境市民会議 菅原亜希子  登米市コミュニティ推進連絡協議会 会長 後藤一衛  公益社団法人 とめ青年会議所 直前理事長 齋藤力  株式会社七十七銀行 佐沼支店 支店長 今野和則  株式会社仙台銀行 佐沼支店 支店長 尾形衛  株式会社日本政策金融公庫 石巻支店 支店長 吉池雅志  連合宮城仙北地域協議会 議長 藤村孝喜  株式会社登米コミュニティエフエム 代表取締役 斉藤恵一</p> <p style="text-align: right;">以上 24 人</p>
欠席者 (委員) の氏名	<p>宮城北部流域森林・林業活性化センター登米支部 支部長 高橋平克</p> <p style="text-align: right;">以上 1 人</p>
事務局職員職氏名	<p>【事務局】  企画部 部長 秋山茂幸  企画部 次長 中澤和志  企画部企画政策課 参事兼課長 佐藤裕之</p>

	企画部企画政策課 課長補佐 小野寺仁 企画部企画政策課 課長補佐兼企画政策係長 新田公和 企画部企画政策課 企画政策係 主査 金澤健治
議 題	<b>【報告事項】</b> 登米市における地方人口ビジョン及び地方版総合戦略の策定について <b>【協議事項】</b> (仮称) 登米市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について
会 議 結 果	別添のとおり
会 議 経 過	別添のとおり

会議資料	<p>【資料1】登米市における地方人口ビジョン及び地方版総合戦略の策定について</p> <p>【資料2】(仮称)登米市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)</p> <p>【参考資料1】登米市総合計画審議会条例</p> <p>【参考資料2】登米市まち・ひと・しごと創生推進本部設置要綱</p> <p>【参考資料3】まち・ひと・しごと創生法</p> <p>【参考資料4】まち・ひと・しごと「長期ビジョン」「総合戦略」パンフレット</p> <p>【参考資料5】まち・ひと・しごと創生長期ビジョン</p> <p>【参考資料6】まち・ひと・しごと創生総合戦略</p>
発言者	発言要旨
【1 開会】	
事務局	<p>ただいまから、第1回登米市総合計画審議会を開催させていただく。本日の審議会は第1回ということで会長及び副会長の互選、報告事項1件、協議事項1件となっている。審議会の終了時刻は午後4時ごろを予定している。</p> <p>布施市長より皆さまに委嘱状を交付する。</p>
【2 委嘱状の交付】	
【3 市長挨拶】	
市長	<p>ただいま、委員の皆さまに委嘱状を渡しお引き受けいただいた。お礼とこれからの策定に向けてご協議いただきたい。</p> <p>先般の総合計画審議会の皆さまから第二次総合計画について答申をいただいた。今回、登米市地方人口ビジョン、いわゆる日本の国全体が人口減少社会に突入している中であって、これからこういった取組をすることでこの人口減少に歯止めをかけることができるのか、その取組に向けて注力をしていかなければならない。まさに日本を挙げてその取組を行っている。</p> <p>登米市としては昨年から策定作業を進めてきた第二次総合計画の中でも、それらの取組は項目だけでなく、実行性のある中身についても審議して議論していただいた。その中でも重点的に戦略性をもって取り組まなければならない大きな課題として人口減少に対する取組が求められている。</p> <p>まちづくりの基本理念である「協働による登米市の持続的な発展」を進めていくうえで、それぞれの年代各層、各事業に取り組んでいる皆さんの力、市民の力を結集してその取組にあたる、そんな総合戦略を策定していきたいと考えている。</p> <p>総合戦略は市民に対して掲げるだけではなく、市民一人ひとりにその意味を十二分に理解していただき、市民全員がその課題に向けて果敢に取組を進めていく行動計画にしていきたいと考えている。</p> <p>多くの質疑をしながら市民にとって分かりやすく、共感を得ることができるような取組にしていきたい。</p> <p>今回、総合計画審議会委員として5名の臨時委員の方にも委嘱した。人口減少社会に突入していく中で経済活動は大きな意味を持つと考えている。そのた</p>

	<p>め市内の金融機関の方に委員に入っていた。また、労働者の視点からの意見、地域を見渡した中での幅広い意見をいただきたいということで労働団体、マスコミの方にも委員に入っていた。</p> <p>大変難しい取組ではあるが、幅広い見識の中で忌憚のない指導、指摘をいただきたいと思う。委員の皆さんの活発な審議をいただき、事務局も懸命に取り組んでいくので、一丸となった成果を期待している。</p>
<b>【4 委員紹介】</b>	
事務局	16番の高橋平克委員から欠席の連絡をいただいている。
<b>【5 会長及び副会長の互選】</b>	
委員	先日までの総合計画審議会では会長、副会長を行っていた徳永幸之委員と西條多美子委員を推薦する。
市長 (臨時会長)	これ以外に意見はないか。この案でどうか。(⇒賛成の拍手多数) 委員の皆さんにご承認いただいたので提案どおり、徳永幸之委員を会長に、西條多美子委員を副会長に選任する。
<b>【6 諮問】</b>	
市長	(審議会へ諮問)
会長	先の総合計画審議会に続き、大役を引き受けることとなった。先日、総合計画の答申をしたが、これをいかに実効性のあるものとするのかといった時に地方創生というキーワードでまち・ひと・しごとという中で、特に総合計画ではひと・しごとの部分については十分書ききれてないのではないかと思う。市としてやっていく部分では地域の方がどのように頑張っていくのかということが重要だと思う。地方創生についてもこの総合計画審議会でも議論することになるが、臨時委員にも入っていた。より実効性のある議論をしていきたい。
委員	また副会長という大役を引き受けることとなった。宮城県でも地方創生総合戦略の策定が始まっていて、そちらの会議にも入っている。そこでの議論を踏まえて意見を出していきたい。今回は臨時委員の5名にも入っていただくので貴重なご意見をいただけると期待している。登米市がよりよいまちに発展していくことを願いながら、そのためには人口が増えていく、まちをみんなで盛り立てていくということが第一条件なので、忌憚のない意見をいただきながら進めていきたいと思う。
(市長退席)	
<b>【7 議題】</b>	
会長	<b>【報告事項】</b> 「登米市における地方人口ビジョン及び地方版総合戦略の策定について」 <b>【協議事項】</b> (仮称) 登米市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について それでは、事務局から説明をお願いします。
事務局	(配布資料1及び資料2に基づき、説明)
会長	「第1章 全般的事項」についてご意見いただきたい。(⇒意見なし) 「第2章 人口ビジョン」についてご意見いただきたい。

委員	<p>今回の地方創生が地方消滅と言われるように、その根拠が人口減少。19歳から30歳の男女が減少している。</p> <p>人口推計は25ページから31ページまで7つのパターンになっている。この中のどれを採用するのか分かりにくい。総合計画における目標人口に沿ったかたちで整理すべき。</p> <p>7ページの合計特殊出生率、宮城県はたしか全国でワーストくらいの低さで登米市はそれよりも上。人口推計では宮城県は2.07を使っている。現状は登米市の方が高いので推計でも県を上回る設定にしているのではないかと。</p>
事務局	<p>宮城県では24ページの推計のうちパターン2とパターン3の条件を設定してパターン2を採用している。合計特殊出生率が2030年に1.8という希望出生率になり、2040年に2.07という人口置換水準になるもの。</p> <p>登米市の合計特殊出生率は全国、宮城県と比べて高い水準となっている。県と同じ条件で推計してもあまり人口減少の抑制とはならなかった。第二次総合計画の重点施策の目標にもあるが、登米市は平均寿命が県内のワーストに近い状況であるため、平均寿命を向上させるため、県内の平均寿命上位である名取市と登米市の中間値を設定したものがパターン7になっている。</p> <p>34ページに最終的な設定値を記載している。合計特殊出生率、生残率、純移動率の3つを合わせた条件により2025年（平成37年）に72,000人をクリアする推計となっている。</p>
委員	<p>そうであれば34ページにパターン7を採用すると明記したほうが分かりやすい。</p>
委員	<p>生残率が高くなると高齢者が多くなるということか。</p>
事務局	<p>登米市はもともと合計特殊出生率が高いことから、この数値を上げても人口減少の抑制にならなかった。そこで第二次総合計画でもあるが、平均寿命を県内平均くらいに上げようということで設定した。</p> <p>また純移動率で20歳代、30歳代を移住・定住政策で増やす。生残率で高齢者だけを増やすという訳ではなく、まんべんなくそれぞれの年代を増やすという考え方で高齢化率はそれほど上がらない。</p>
会長	<p>パターン7を採用ということだが、注釈を見ても条件が分かりにくい。具体的に純移動率がどれくらいのものがどのくらいに変わったのか説明があるといい。</p> <p>本来であれば2.07になれば人口を維持できるが、それは若い世代がそのまま残ることが前提で、登米市だけでなく多くの自治体で若い世代が長期にわたって減少している。そのため出生率を上げても人口減少抑制とならない。そのことから、純移動率（社会増減）をいかにコントロールするかが重要。出ていく人を少なくし、来てくれる人をどうやって増やしていくのか。この部分がまだ見えてきていない。</p> <p>人口ビジョンの中で社会移動がどれだけ影響力を持つのか、もう少し明示的に出しておくのと、次の第3章につながると思う。</p>
事務局	<p>純移動率がどの程度影響するのか明示できるように検討する。また、パター</p>

	ン7の明記についても検討する。
委員	15ページの社会増減について、流入と流出の差を書くと分かりやすい。
会長	「第3章 総合戦略」についてご意見いただきたい。
委員	今回の地方創生で計画に掲げた内容に国から交付金が出るのが重要なポイントである。総合戦略の部分で新しい施策が何なのか、見せ方として新規であることが分かるようにすべき。
事務局	表現については見直す。
委員	<p>45年後に人口が54,000人になる。それを踏まえた総合戦略だが、39ページの移住・定住の主な取組が3つしかない。加賀野土地区画整理事業に関わっていたが700世帯、2,100人の人口増加となっている。当時は中田町の主産業である農業をスプロール化から守るため、集中的に宅地開発を行うという計画だった。このような都市計画の事業があるはずだが取組に入っていない。空き家対策、住宅フェアでは人口増加にはならない。都市計画に基づいた区画整理事業を位置づけないとダメだと思う。</p> <p>栗原市では若者（20歳代、30歳代）に限定して、格安の住宅地の分譲を行っている。併せて固定資産税を5年間免除している。これも区画整理事業の延長線上にある割安分譲住宅事業だと思う。登米市の都市計画の整合性を持ったまち・ひと・しごと創生総合戦略でないとダメだと思う。</p> <p>40ページの交流人口の増加について、観光だけが交流人口ではないのはいか。具体的にはカップハーフマラソンには約3,000人が参加する。全国各地から宿泊を伴ってくる。スポーツイベントをどのように交流人口として位置づけるか。9/23に剣道日本一となった千葉仁杯争奪の豆剣士が全国から1,000人以上集まる千葉旗争奪少年剣道大会がある。小学生が出場するため、親兄弟など相当の人数がくる。これも交流人口に位置づけていくべきである。</p> <p>47ページの健康推進と地域包括ケアの充実について、運動習慣のある人の割合を上げたいという項目だが、平均寿命と健康寿命を延ばすということで教育委員会の生涯学習課、総合型スポーツクラブ、地域の公民館、体育協会などとの連携が書かれていない。縦割りではなく登米市全体で知恵を絞って同じ目標に向かって連携するべき。</p>
事務局	<p>定住として外から来て住んでもらうためには住宅を整備して、そのための助成があるということを考えていて、これらを含めた整理が必要。</p> <p>交流人口の増加には観光を基軸としたものだが、当然スポーツイベントでも多くの交流人口が生まれている。</p> <p>健康推進について、平均寿命と健康寿命を延ばすためには運動が重要だと認識しているので、意見を踏まえて整理したい。</p>
会長	<p>「縦割りでなく」というのは重要なポイントで、総合計画もそうだが実施計画、今回では重要業績評価指標（KPI）を出すために個別の事業でどのような数値目標を立てるのかということになってしまう。</p> <p>活力のあるまちをどうやって創っていくのか、事業としては縦割りにならざるを得ないのかもしれないが、効果が薄れてしまう。相乗効果を高める事業が</p>

	重要なので、連携し進めてほしい。
委員	具体的な施策にはいいことが書いてあるが、総花的で具体性はどうかと思う。せっかく評価指標も出しているのに、指標に対して具体的にどうやっていくのかが欲しい。例えば妊娠・出産なら産婦人科の問題などが出ていない。
事務局	施策が文面のみなので具体性が見えないのかと思う。この施策の下には実施計画に近い事務事業という具体的なものが出てくる。そこで整理したい。
会長	今回の指標で現況が空欄の部分がある。現状に対して目標値がどれだけ大変なのかが分かったほうがいい。目標値を出しているが本当に実現できるのか。説明できる部分については説明してほしい。
事務局	今回、重要業績評価指標（KPI）は39項目設定している。第二次総合計画の重点戦略の部分と整合を図っている。そのうち14項目は第二次総合計画でも指標設定しており、目標年次が平成37年度、今回の総合戦略が平成31年度ということで年度調整を行っている。 現況がバー表示（－）になっているものは数値を把握していないものである。個別の指標についてご指摘のとおり、達成しやすさが分かりにくいと思うので、説明を追加したい。
委員	登米市の20歳代、30歳代の年収について、この年代の安定的な収入があると安心して定住できるのではないかと。子育ても収入の安定があつてこそだと思う。ハローワークでも正社員ではなく非正規労働者の求人が多いのが現状である。
事務局	雇用が大きな課題である。安定した雇用を創出するというのを一つの基本目標としている。既存企業と誘致企業で若い人の雇用確保をしていくこととしている。基幹産業である農業の強化も重要と考えている。 若い人が収入を得て働く場があることが人口の改善につながる。
委員	雇用の創出について、政策金融という立場では起業創業の部分に力を入れている。市でも起業創業支援を行っているが、若い学生が就職をするタイミングで人口減が大きい。そこで外に出た人に戻ってもらわなければならない。Uターンによる起業とか新たなビジネスのチャレンジでの雇用の創出を、若い人がUターンによってつくらなければならない。 これから具体的な施策、事業に落とし込んでいくなかで補助金、助成金といったものでインセンティブを与えていく。36ページにある中学生、高校生を対象とした体験プログラムがUターンによる起業にとってはいい教育効果があると思うので続けていただきたい。 重要業績評価指標（KPI）で市の支援による起業・創業者数（累計）となっているのは5年間で10事業者ということで年間2事業者は控えめな目標かと思う。下の地域の新規創業企業での新たな雇用者数（累計）は5年間で20人。我々の統計では起業した小さな企業においても、平均4人くらいの雇用を生んでいる。40人くらいでもいいのではないかと。
委員	登米市の第一次産業は全国的にみても米の生産、畜産など上位に入る地区。若い人に入ってもらうには6次産業化が必要。恵まれた大地と森林と水を活か

	して取り組むことが重要。
事務局	企業誘致についても、6次産業化についても目標設定しているので意見を参考にさせていただく。
委員	<p>重要業績評価指標（KPI）の現況が空欄になっている部分がある。その理由を説明していただきたい。</p> <p>42 ページの放課後児童クラブ利用者数の目標が現況よりもかなり多く見積もっているが、少子化で子どもが減っているなか実現性のある数値なのか。</p> <p>児童の安全、教育について総合戦略には入っていないが入れたほうがいい。子どもたちの教育だけでなく、親たちへの教育も必要。学校任せでなく家庭、地域が一緒になって特に家庭での教育が中心になる必要がある。</p>
事務局	<p>43 ページのワーク・ライフ・バランス研修会等参加者数はこれまで参加者数を把握していなかったのでバー表示（－）にしている。</p> <p>42 ページの放課後児童クラブ利用者数については子どもの数は減っていくが、共働きなどで家を留守にする家庭も増えることが考えられるため、それらに対応した目標としている。</p> <p>子どもの教育については学校だけでなく、地域、家庭が重要。その点ではワーク・ライフ・バランスで家庭を重視してみんなで子育てしていく環境を創ることが必要と考える。</p>
委員	<p>重要業績評価指標（KPI）の目標の設定理由が分からないと、あとから PDCA を実施する時に、目標が高かったとなりかねないので整理が必要。</p> <p>重要業績評価指標（KPI）と数値目標がリンクしているのか疑問が残るので、説明できるように整理していただきたい。</p>
委員	<p>雇用創出について、金融機関目線でいうと新しい企業誘致に対して、税制優遇や雇用確保ができるかということ企業は考えている。大企業や中堅企業はこれまでに根付いた地域で継続することを第一に考える。地域にとって役に立つ企業とは、地域に根ざしたサービス業。小売、介護を含めたものが右肩上がりなので、今後サービス業を進展させるには高齢の方が住みやすいまちをつくれるかどうか。高齢になると行動範囲が狭くなり、コンパクト化が求められる。</p> <p>まずは消費を活発化させるための施策が必要で、その後は医療、介護需要に対応した施策が必要となる。</p> <p>市民が何を求めているのかを考えると、安心して子どもが産めるまちをつってもらいたい。</p> <p>結婚や出産を意思決定するのに必要な年収は 500 万円と言われている。なかなか難しいと思うが、郊外の中古の戸建住宅を子育て支援事業で整備し、入ってもらうことも考えるべきではないか。</p>
事務局	一番の目標は人口減少の克服なので、いかにして定住人口を増やすのかが大きな課題。意見を参考にする。
委員	人口増については5年の計画なのであまり変わらないと思う。10年先を見越した5年ということだと思うが、分かりやすくしたほうがいい。この計画が出来上がって市民が見たときに全部を理解するのは難しいと思う。

会 長	<p>人口ビジョンが 2060 年までと長期の目標であるのに対して、総合戦略は今年を含めた 5 年間ということでのギャップが気になる。長期の視点を持ちながら、短期をやろうということだと思うがその関連性を説明する必要がある。</p> <p>特に出生率を上げるのはかなり難しいことで、5 年でその数値が上がるのか。それと並行して転出していかないようにする、転入してもらえというまちにする。これがじわりと効いてくると思う。そこで雇用の創出などを重点的にやるということかと思う。総花的に見える部分もある。どこに重点を置いているのかが分かるようにしていただきたい。</p>
委 員	<p>人口を多くする、若い人を多くする、登米市が活気づいているということが目標だと思うが、フートピア公園のすべり台が赤色に変わっていた。色など視覚的にも子どもたちに魅力のあるものをつくる。</p> <p>登米市市立病院の小児科がこれまでは消極的だったが、今年の 4 月から日曜日も開設するようになった。子育てしている人には安心できることである。</p> <p>よそでは給食費を市で負担するところがある。登米市でも目玉として打ち出せるものがあればと思う。</p>
委 員	<p>市長が施策の中でどのようなアドバルーンを上げるのか。登米市にはヘソがないというか、ポイントがないというか、シンボルがないというか。</p> <p>夢がないとよく言われる。ありきたりの内容ではなく、一捻りが必要だ。</p> <p>商店街が疲弊して小売業が壊滅寸前。行政が手を貸して住宅をつくるとか、商店街の土地を借り上げるとか税制を免除するなど、ハード的な整備が必要ではないかと思う。</p>
会 長	<p>たくさん意見をいただいた。構成というか見せ方も工夫していただきたい。何がやりたいのかがよりはっきりと見えるものにしていただきたい。</p>
<b>【 8 その他】</b>	
事務局	<p>次回の日程について、10 月 16 日（金）午後 2 時から迫公民館 2 階大会議室を予定している。その次は 10 月 26 日（月）午前 10 時から迫公民館 2 階大会議室で、この回で答申をいただく予定にしている。</p>
会 長	<p>以上で第 1 回登米市総合計画審議会の議事を閉めさせていただく。</p>
<b>【 9 閉会】</b>	
副会長	<p>長時間に渡り、貴重な意見をいただいた。総合計画審議会での意見が反映されて、よりよいものになるように事務局で調整されると思うので、また意見をいただきたい。</p>
事務局	<p>以上を持って、第 1 回登米市総合計画審議会を終了させていただく。</p>